

## はじめに

金沢大学附属中学校

校長 松原道男

知識基盤社会といわれる今日の教育においては、基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成が目指されています。とくに思考力、判断力、表現力については、言語活動がともなうことが多く、国際的な学力調査の結果からも言語活動の重要性が指摘されています。本校においても、昨年度より言語活動に焦点をあて、それを意図した授業実践に取り組んできました。教科の特質性を考慮しながら、授業展開、教材やワークシート、話し合い活動について、言語活動の観点から議論を行ってまいりました。

昨年度 11 月においては、これまでの成果を深めるために、中間意見交換会を開きました。学校教育学類をはじめとする金沢大学の教員、教育委員会や地域学校からの優れた授業実践者の協力を得ながら、言語活動を中心とした授業実践の成果を発表するとともに、地域から授業の取り組みについての情報を得ながら、よりよい授業のあり方について検討し、実践してまいりました。この中間意見交換会は、本校の研究してきた成果を発信するだけでなく、地域の教育のよい取り組みを吸収するとともに、地域全体の情報交流の場を提供することを意図したものであります。

本年度は、昨年度の中間意見交換会を受けて、年度の早いうちにこれまでの成果について授業実践を通して、発表会を行うことにしました。年度初めに会をもつことにより、各学校に参考にしていただくとともに、各学校からの情報を新たに得ていこうと考えております。本校においては、今後とも、学校教育学類を中心とした金沢大学の諸先生方の共同の研究体制を保ちながら、地域学校のモデル校あるいは地域学校の実験校としての役割を目指すとともに、情報交流の場を提供できるようにしたいと思っています。各分科会等においては、忌憚のないご意見および授業実践についての情報を提供していただければ幸いです。

最後になりますが、教育研究発表会の開催にあたり、ご支援をいただきました石川県教育委員会、金沢市教育委員会に対して厚く御礼を申し上げます。また、各教科において、情報を提供していただくとともに、ご助言をいただきました公立中学校の先生方に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年 5 月 27 日